

刊夕日十三月九



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
 廣告料 五字一十行 一十五日五拾元  
 日曜祭日の別日休刊  
 發行所 常新日新聞社  
 印刷所 常新日新聞印刷株式会社

### 成辰の覺書

漆原市郎左工門手記

平陽 老人

(四)

一 閏四月十日白川出兵永野宗助隊長に百八十人餘壹小隊出兵之處先方にて貳小隊に分隊致候趣同十一日貳番隊三坂迄五十人餘出立仕候  
 一 同月十六日頃御上知に付て歎願書早々差出候方に孫三郎殿被申聞候趣永野宗助より申來候間神谷外記白川に早追にて出立孫三郎殿御談合にて文面認置候廿日に可差出手續之處同日拂曉より戰爭に相成參謀須賀川之方へ脱走に相成差出に相成不申候  
 一 閏四月下旬仙藩之由にて日野徳次郎中根監物辰野勇罷越候に付竹尾直右衛門其外面會之處何日頃御出兵に相成候哉申聞候間白石出張之者より何共不申越不審に付續々啗合候處盟約に相成候次第未だ不申來候に付味岡重右衛門應接是迄之事情申述仙臺之印に相改五月二日隊長神谷外記鍋田治左衛門壹小隊八時半時御城内出立合月迄繰出に相成申候  
 一 五月朔日奥羽盟約書棚倉より端山官治寫來る

一 同月二日日本宮邊出張之會人江 殿様御上京中出兵難致疑念無之様事情申述として上助大夫殿小川彌五右衛門山田省吾出立仕候同日松本哲之介棚倉江爲御使者罷越居候處會人同城下江線込に付ては嫌疑を受御不都合有之候にて不宜候間引取候様棚倉藩申聞候に付朔日朝同所出立二日八時半時着途中にて承り候は白川白坂之邊にて砲聲相聞候戰爭に相違無之旨申聞候  
 一 小名濱沖に回天丸滯船閏四月江戸出帆廿九日着船二百七八十人乗組石炭積八十八人程上陸幕府人之由一山田彦太夫仙臺江出立途

一 同六日肥州藩安永又吉長州藩松島九郎笠間より神谷陣屋に來り仙臺邊迄罷越候旨申聞相馬三春平藩に懇意之者有之來は、手寄を以面會致度旨神谷郡奉行武藤甚左衛門市原五郎兵衛宅に貳申聞候此度奥御同盟之儀無據候得共御主人御上京之事御不都合無之様致度御談合致度申聞候由其後味岡重右衛門市原五郎兵衛罷越面會仕候

被遣仰付出立仕候  
 一 五月四日相馬兵隊百八十人棚倉江出兵今日當驛止宿  
 一 同五日殿様御上京中出兵難仕一條に付中村茂平室衛平仙臺に出立  
 一 同日竹尾直右衛門小名取締之儀磐城三藩にて交代四人つゝ宛差出候方之相談泉湯長谷江罷越候

但彌五右衛門省吾出立後小名江蒸氣船碇泊に仕先ッ合戸込出兵其先には不差出方評決に相成候

【晝】みそ煮一蛤みそ煮  
 【晚】船鹽煮一さば 半月大根  
 一 五月六日上坂助大夫殿御出同所より着  
 一 同日棚倉江應援行として端山官治口上書持參出立  
 一 同日夕本宮驛小川彌五右衛門山田省吾より書狀來る四日本宮驛江着之處仙臺兵隊六百八人程出張日理徳次郎に面會同人周旋にて増田曆治に爲引合出兵苦情申述候處尤之趣挨拶有之一人も不差出候事は嫌疑相受候ては以之外に付一小隊四十人郡山江線込之談判に付成丈ケ人員相減正味四十人繰出候様尙國境兵備海防等申立福島江出立之積申來候中根監物辰野勇會人之由申來東西凶

## 黒小倉服 賣出し

小學生 中學生  
 上等品 一圓六十錢  
 特製A 三圓五十錢  
 特製B 三圓二十錢ヨリ

平町 正札堂洋服店 電話四三

## 秋!

爽かな秋の旅を不二の車で  
 日光鬼怒温泉附近案内一部差上げます

### 不二タクシー

電話 32番

## 咽喉專門

應入院 應需

平町田町七〇番地  
 山内醫院  
 醫學士 山内亨吉  
 電話六九一

## 景品付賣出し

十月二日より七日迄  
 時計の御修繕及御買金高に依り  
 景品色々差上げます

時計と眼鏡 指輪裝身具  
 山崎時計店  
 平五 新川町通り

## 黒小倉通學服賣出

冬服の御用意をなさいましたか  
 弊店は御満足の頂ける黒小倉服を  
 澤山取揃へ特價にてお務めしております

ふかや洋服店 平三 203

# 江名附近一帯に 野犬が出没し

## 兇暴の限りを盡す 近く獵友會が一齊射撃

石城郡江名濱方面の山中に最近野犬が増加して百數十頭に及び今後益々繁殖の傾向が、あり是等の野

犬は全く野獸化して其性質兇猛性を帯び夜間は漁濱に出て遺棄した腐爛魚類等を食して居るが食物に窮すれば

人家近くを襲つて豚鶏等を食ひ殺し兇暴の限りを盡し江名濱を始め附近の小名濱、豊間等の漁濱や高久、夏井の農村に迄も出沒

するに至り被害は甚大で昨夜の如きは江名町公民學校飼養中の

羊小屋に襲來し數頭の羊を喰した爲め同校にて我慢が出来ず本日右の野犬狩りを理由として獵銃使用方を願出たが横山署長は時節柄射撃器使用は

穩當ならずと近く獵友會に圍り同會員の手に依つて一齊射撃を喰はす事になつた

# 秋刀魚初て

## 平町に到來

### 御祝儀相場場で

#### 一尾五錢

既報目下の秋刀魚漁場は岩手宮城兩縣の沖合にあり従つて漁獲秋刀魚は兩縣下に水揚され東京方面に多く搬出さるゝ爲め平町では未だ

食膳に上ぼすに至らなかつたが本朝漸く鹽釜より自動車で平町に初入荷した、其

の數量約二万本と云はれ御祝儀相場事として忽ち一尾三

錢乃至三錢五厘で問屋側と初取引が行はれ市價は一尾四錢五厘乃至五錢と云ふ高値を見て居ると

# 出品兒童

## 平第一校決定

平第一小學校では来る十月十七日日本縣男子師範學校

邦 (五年)大須賀淺吉  
千葉省彦 青木肇(六年)  
小坂隆道 關原定之 安  
齋憲次郎 (高一)眞田邦  
信 鷺基一 諸橋唯雄  
(高二)曳地岩雄 後藤秀  
雄 瀨戸利雄  
△圖書 (二年)水和田一  
郎 佐川英一 (二年)山  
名龍康 武田三郎(三年)

酒井健 小野昌平 岡田  
孝平 (四年)齊藤修三  
折笠直彦 新妻幸男(五  
年)田村十二郎 鈴木將  
夫 高階文三 稻島正  
菊地宗俊 (六年)吉田光  
弘 小坂隆道 (高一)鹿  
島康弘 大森文勝(高二)  
正木定雄

# 鑛山の經濟調査

## 磐城炭鑛を指定して

仙臺鑛山監督局では今回鑛山の經濟調査を行ふ爲め磐城炭鑛を選定し同局諸井鑛政課長の一行は明十月一日より一週間滞在基本調査を行ふ

平役場野球團 平町役場では今回左記野球チームを組織し本卅日午後二時より第一小學校庭で常磐銀行チームと對戦する  
子藤藤目川田田橋  
金(佐馬荒山吉橋  
(投捕)(一)(二)(三)(左)(中)(右)

# 蒟蒻が立枯病で

## 山間の農家悲鳴

石城郡田人、入遠野上遠野等山間部落の重要産物である蒟蒻玉は發育旺盛期に酷暑の痛手を受け立枯病を發し就中田人村の如き殆んど全滅に瀕して居り各村を合して被害百町歩に達し農家は悲鳴を擧げて居ると

が馬市場軍馬補充場其他を三日間の豫定で親察の上歸郡すると

# 陪審員の資格者

## 僅か五名の減少

既報平町役場で豫てより調査中であつた陪審員資格者は本日を以つて終了したが其數四百七十七名で昨年度の四百八十二名より僅か五名の減少に過ぎないと

秋蠶取引數は八百六十四貫最高四十五圓九十錢、最低三十九圓、馴四十三圓三十三錢で横濱相場の下落が影響して落調氣味となつた

# 晩秋蠶は

## 落調氣味

四倉商市場の昨廿九日の晩

好問軌道決算 平古鍛冶町好問軌道株式會社では本日午前十時より事務所にて定時株主總會を開き事業報告及び損益金の處分案を議した

隈田川大掃除 石城郡好問村隈田川炭鑛では明十月一日秋季衛生掃除の後

美味で！  
評判の……  
イワキ  
サロン  
電 352

味覺の秋を楽しみ得る  
香氣の高い 松茸  
料理を始めました  
出前 迅速  
錦水  
電四五四

出前持 各々二三名  
見習 右大至急入用  
平町二丁目  
魚清食堂  
電六三三番

金銀高價買入  
各國時計：眼鏡：貴金屬  
御修繕は専門の當店へ  
根本時計店  
平二(電話六〇七番)

# 怪火究明を

## 横山署長が言明

### 檢舉數好成绩の平署が

### 人心の不安一掃に躍進

平町新川町長木材工場の火災原因は未だ其の筋より發表さるゝに至つて居ないが最近同方面に原因不明の怪火が頻發する折柄として

人心は、極度の不安に駆られて居り平署も最近檢舉數開署以來の記録を示し縣下第一の好成绩を擧げて居るに拘らず是等火災事件のみが五里夢中の間を彷徨するの型である事を

苦慮して人知れず是れが探究に努力して居る模様で本日横山署は心中深く期する處あるものゝ如く決然として左記の如く語つた

「殺人強盜の如き重大な犯罪も其の及ぼす被害は一小部分に過ぎないが火災は被害が擴範圍に亘り然も其の程度が莫大な結果を醸すに至るので是れが原因調査は最も當署の意を注ぐ處であり此の解決を見ない間は夜も安々と寝れない、新川町方面の怪火に就いては當署独自の見地から夫々計劃を進めて居る、近い内には不安を一掃出來ると自信して居るから暫く籍すに時日を以つてして欲しい」云々

## 夏井の神木

### 再び火を發す

落雷後一週間も過ぎて

### 村内大騒ぎ

既報去る二十三日の落雷で發火した夏井村縣社大國魂神社の老神木は翌朝に至る迄燃え續け消防組や青年團の力でヤット火は鎮つたが不思議にも昨日午後四時頃又々燃え口より發火し盛んに火粉を降らすので大騒ぎとなり同村消防組青年團員が馳せ付けて今度は老樹の下部に穴を明け其處からホースを通して消火に努め一時間後に鎮火したと

## 教員檢定合格

本縣尋常科正教員臨時檢定第一次試験は去る二日日本縣男子師範學校に於て行はれ此程發表されたが合格者四十三名の内本郡から平町高橋金治、好間村長久保良平の兩君が見事にパスした因に高橋君は本年十八歳、目下警

## 難儀な友人一家を

救つて益々生活に窮す

### 役場に救済願

北海道夕張町坑夫平塚建市(一)は去月失明して職を離れ家族三名と共に豫て懇意であつた平町正月町川本芳之助方を頼つて内地に引揚げ本月十二日から同居して世話になつて居るが山本方面も餘り生活が樂でない處此始末として最近全く生活難に陥つたとして地元區長から本日町役場に救済方を願出た

## 銃劍貸與

警中の方針

警中では郡内の青年訓練所から銃劍等の借用方を屢々申込まれるが是等は何れも



今晩も明日共東の風晴曇半

## 今晩の部

- 後六、〇〇 (子供の時間) 唱歌劇「お月見」BKコドモサークル
- 後六、二五 講演「安積郷水の歴史と其の使命」渡都信任
- 後七、三〇 歌謡曲(其一)
- 後七、四五 俚謡「博多帯」ひで
- 後八、〇〇 吹奏樂 陸軍戸山學校軍樂隊 指揮樂長伊藤隆一
- 後八、三〇 歌謡曲(其二)

## 明日の部

- 前九、一〇 榮養料理献立「鮭のゆず味噌かけ(主料理)油揚げのおろし酢(副料理)」榮養研究所
- 前九、三〇 時報ニュース 氣象通報 番組豫告
- 後八、四五 落語「ロクロ首」古今亭今輔
- 後九、〇五 長唄「鶯娘」杵屋和歌外
- 後九、三〇 時報ニュース 氣象通報 番組豫告

## 青訓後援

會員募集の成績が良い

既報平青年訓練所の趣旨徹底を圖るため青沼平町長を會長として創設された同後援會は其後評議員の各區長が主となり百方勸誘に努め目下の處會員は三百餘名に達して居るので來る十月三日の締切迄には少く共四百名以上に達するであらうと見られてゐる

## 婦人會幹事

總集會打合

平婦人會では來る十月二日午後一時より役場會議室に於て幹事會を開き總集會開催の件會員名簿整理の件其他を協議する

## 裁判所だより

△昨日公判の準備手續を終へた山田村大平武(三)に對する傷害致死事件の公判は來る十月十三日午後一時より平支部に於て中島裁判長係り關口、香西兩判事陪席清田檢事立會、門傳辯護士列席の下に開廷する

△双葉郡大野村大字大川原字森頭八菅野傳(一)及び實母クラヨ(二)は本日親權者實父倉藏を法定代理人として同村石井傳治(三)を相手取

## メガホン片手に

### 國防費を勸誘

古河の郷軍が街頭進出

石城郡好間村古河炭礦在郷軍人分會では國防費献金の爲め公休日を利用して制服を着し各自メガホンを持つて街道に進出通行人より寄附を募集すると

## 劍道功勞

室氏に謝恩

警城劍道會では本日午後一時より小野寛美氏宅に幹事

忠治「廣澤虎造」  
後二、三〇 義太夫「傾城阿波鳴門」(十郎兵衛宅の段)一淨るり、竹本彌周  
三味線、鶴澤彌一  
後三、〇〇 映畫「國十郎の安」犬養一郎 伴奏、指揮、杉浦耕哉  
後六、〇〇 子供の時間 童話「おぢいさんの愛馬」奈良島知堂  
後六、二五 講演「注意術に就て」村上辰五郎  
後七、三〇 講演「簡易保險の事業現況」南弘  
後八、〇〇 ヴァイオリン二重奏「アレキサンダー」モギレフスキー他  
後八、三五 ラヂオドラマ「ホケン、ホケン、ホケン」小林十九二 外大勢

平職界の所報告  
回人を求める方  
△鑄物工見習 十八迄 尋卒 仕着小遣(平町某)  
△農夫 四十才 委細面談(神谷村某)  
△豆腐賣子 三十才 賣上の二割給外面談(平町某)  
△女中 十七才 高卒 月五圓(平町某)  
回職を求める方  
△給仕 十七才 商半退 給料面談(平町某)  
△土工夫 四十五才 尋一 修給料面談(内郷村某)  
△材木店員 二十三才 高卒 給料面談(田人村某)  
△出前持 二十五才 尋五 修給料面談(平町某)

# 銘仙と双録

【禁無断轉載上演映畫】

寶井馬琴演  
山本英春畫

第五十三回 血に飢ゆる村正

月日に關守もなく  
勘「時に清助、次郎左衛門は明日は屹度歸るか」  
清「明日は大丈夫歸るよ」  
勘「どうだ多七、モイかうなつちやア仕方がねえ待て居て幾らか金を借るよりは是から中仙道筋へ出て次郎左衛門の歸りを待たうぢやねえか」

勘「腹が痛くつちやア仕方がねえ、夫ちやア熊と秀で飯を焚いて汁でも拵へて呉れ、そいつを食つて出て行かう」  
秀「エー、斬り合が飯焚と化て了つた」

多「俺も然う思ふ細く長く暮すより太く短かくやつ、けちまはう、素直に金を出しやア宜し鬼や角いやア仕方がねえ」  
勘「夫にしても茲で腹をこしらへて家から直に立たうぢやアねえか」  
多「夫も宜からう、清助飯はあるか」  
清「江戸と違つて田舎の住居だ、米や味噌は切る氣遣へねえ」  
多「そんなら飯を焚いて食はして呉れ、何か肴といつてもあるゆえが、汁でも拵へて貰ひてえ」



清「米も味噌も澤山あるが相憎俺ア先刻から腹が痛くつて起る事が出来ねえ、親分達は子分衆が居るぢやアねえか、子分衆に飯を焚かしてドツザリ食つて行かつせえな、ア、痛え」

熊「何うしても下廻りは仕方がねえ、今日に限つて清助の奴が馬鹿の癖に腹が痛えなど、ぬかしやアがる、だがマア仕方がねえ」  
と茲で秀吉熊藏が米をと

ぐやら味噌を摺るやら漸う飯を焚いて了ひお汁も出来たのが夜明け方でございます、飯や汁が出来るまで待つて居た馬鹿の清助、起き上つて前の流れへ行つて顔を洗ひ  
清「朝は早いと心持が好いお前方お飯が出来たらお初に取つて呉れよ、夫からコゲがあるなら結んで貰ひたい」  
熊「此の野郎人に飯焚をさせやがつて出来た時分に起きて来て食はうと思つてやがる」  
清「夫でも俺が金主だから

ます、見てゐた四人も呆れたが相手が馬鹿故何うする事も出来ません、茲で支度をして中山道筋熊谷の地藏を待受けて、次郎左衛門を殺しても金を取らうと思つた處思ひ掛ない都築武助の爲に辛き目に過ひましたのは前回に詳べて置きました。

都築武助は元より次郎左衛門と共に野州佐野の船場へ参りまして暫らく逗留をして居る中に、次郎左衛門が頻りに劍術を習ひたいといふ武助も何うせ用のない身体、夫では教へてやらうと云ふ事になりまして、早速大工を呼んで道場を造らせる、就も道場といふ名ばかりで手廣の處を造作を爲し、一番弟子が絹賣の次郎左衛門といふので、其中に追々有志の者も集まり二十三人の弟子を相手にして今日と暮れ、明日と經つ中に早いものは過行く月日繋がりぬ駒とやらで早や三年に相成りました、持つて生れたものと見えて次郎左衛門は都築先生より鞍馬八流の極意皆傳といふ事になりました、處が人は病の人物とはよく申したもので、武助先生は風邪の心地で寝たのが初まり、果ては重き枕に着きまして近村の醫者を招いたり、遠方より名醫を呼んだりして種々薬用を致しましたがどうも思ふ様に抄取りません、次郎左衛門は己の商賣を省りみず朝夕武助の傍に附いて居ります。

起き直り、外の者を遠ざけ次郎左衛門と差向ひ、武「次郎左衛門些と傍へ寄つて貰ひ度い、内々話がある」  
次「ヘエー何事でございませうか」  
武「思ひ出せば三年跡、中山堂熊谷の地藏殿とやらで言葉交はしてより、縁あればこそ三年起し此の船橋に住ひを致し、近頃は病氣の爲めに、某も寝起きもならぬやうになり、其方は朝夕傍を離れず實に親身も及ばぬ介抱に預かり忝けない就いては、所詮全快はいたすまいと思ふ事もある故、今日は聊か言ひ残す事がござる、どうぞ聞き届けて下されば、死後の喜び之に過ぎずと、申すべきだが、どうであらう」

起き直り、外の者を遠ざけ次郎左衛門と差向ひ、武「次郎左衛門些と傍へ寄つて貰ひ度い、内々話がある」  
次「ヘエー何事でございませうか」  
武「思ひ出せば三年跡、中山堂熊谷の地藏殿とやらで言葉交はしてより、縁あればこそ三年起し此の船橋に住ひを致し、近頃は病氣の爲めに、某も寝起きもならぬやうになり、其方は朝夕傍を離れず實に親身も及ばぬ介抱に預かり忝けない就いては、所詮全快はいたすまいと思ふ事もある故、今日は聊か言ひ残す事がござる、どうぞ聞き届けて下されば、死後の喜び之に過ぎずと、申すべきだが、どうであらう」

## 美味！ 芳醇！

# 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇〇

### 貸切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……………(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

### 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科  
耳鼻咽喉科 レントゲン科

平町田町 電話五一三番

### 喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

喜多流 謠曲 仕舞 白土 會

平田町六九

◇詳細は本會へ御問合せ下さい。

### 秋の流行は三井

本場 銘仙の各種  
斯界の新柄  
三三年型ショール  
毛斯リン着尺の粹

三井 吳井 三 店服

電話 三〇三 八四二